

ピア・エデュケーションを取り入れた 中学生への喫煙防止教育の効果

奥田紀久子 大坂京子 田中祐子
徳島大学大学院医歯薬学研究部 学校保健学分野

1. はじめに

たばここと疾病の因果関係が明らかになった今日、喫煙はどの国においても重大な健康問題となった。日本では喫煙率が減少傾向にあるものの、2015年の男性の喫煙率は33.7%でOECD諸国の中では上位に位置している。

たばこによる健康被害を低減させるために、健康日本21や健康増進法を策定するとともに、学校教育においても、学習指導要領によって小学生から学校で喫煙防止教育を行うこととされている。年少期の教育の効果についてはすでに各国の報告があり、教育介入による喫煙率の低減効果が検証されている^{1) 2)}。一方で、教育の成果には性差や家族の喫煙の状況、家庭環境による影響が生じることも明らかにされている³⁾。

近年、学校教育においてアクティブ・ラーニングによる主体的、対話的で深い学びが期待されている。そこで、大学生が教員よりも身近な存在として、アクティブラーニングにに参加することで、教育効果の向上を試みた。

2. 目的

本研究の目的は、中学生を対象とした喫煙防止教育を、より効果的に実施するために、大学生によるピアエデュケーションの手法を取り入れ、その効果を検証することとした。

3. 方法

1) 対象と期間

A県B中学校1年生122名に対して、2017年9月に喫煙防止教育を実施した。

2) 方法

大学生8名をピアとして、B中学校体育館にて100分間の喫煙防止教育を実施し、その前後に学

校長の許可を得て、無記名自記式質問紙調査を行った。回答は数値化してコンピュータに入力し、統計解析を行った。自由記述は同様の内容のものをカテゴリに分類した。

3) 授業の構成と展開方法

授業の構成と展開方法を図1に示した。

①導入:教員から学習内容について説明(15分)
②講義:教員によるたばこの害に関する講義(30分)
③グループ編成:大学生主導でグループ編成 これ以降は教員が全体を進行し、大学生がグループをサポートする
④小グループワーク:3グループに1名の大学生がチューターとして担当し、たばこに関するキーワード作りのゲームを実施(30分)
⑤中グループワーク:3グループを中グループとして、キーワードを発表し、代表者を推薦する。中グループごとにキーワードを使ったたばこの断り方のロールプレイを実施。大学生がたばこを勧め、中学生が断る役を止する(15分)

図1. ピア・エデュケーションによる授業の展開

4) 質問項目

喫煙防止教育の前には、①性別、②家族の喫煙者の有無、③たばこに関する知識、④将来の喫煙に対する意思、⑤健康管理に関する意識等とした。

4. 結果

回収率、有効回答率ともに、84.4% (103人)であった。属性を表1に示す。

表1. 回答者の属性

項目	n (%)
性別	
男	43 (41.7)
女	60 (58.3)
計	103 (100.0)
家族の喫煙者	
なし	45 (43.7)
あり	58 (56.3)
父親	35 (34.0)
母親	24 (23.3)
両親	14 (13.6)
祖父	18 (17.5)
祖母	8 (7.8)
きょうだい	2 (1.9)

また、授業前後の受動喫煙に関する知識を図2に示した。受動喫煙に関する知識は、授業後の正答者が有意に多かった。

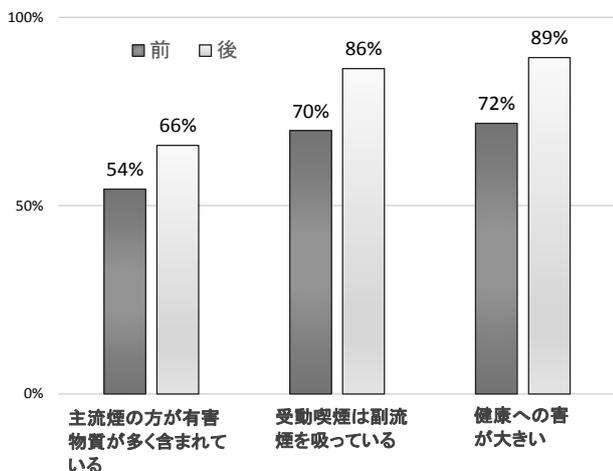


図2. 授業前後の受動喫煙に関する知識の正答者の割合

表2. 健康に関する意識と喫煙に対する意識の前後比較

項目	授業前		授業後		p	t値
	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)		
健康は自分自身で守るものである	3.68 (0.66)	3.88 (0.38)	0.0001***	-3.275		
健康はお医者さんが守ってくれる	2.48 (0.94)	2.45 (0.95)	0.825	0.389		
健康は家族が守ってくれる	2.7 (0.95)	2.86 (0.95)	0.092	-1.603		
病気になったらお医者さんが治してくれる	3.02 (0.75)	2.88 (0.95)	0.0371*	2.150		
病気になったら、自分の力で治すもの	2.46 (0.99)	2.44 (0.96)	0.851	0.287		
将来、たばこをすすめられても断る	3.53 (0.79)	3.84 (0.50)	<0.0001***	3.960		
おとな(20歳)になってもたばこを吸わない	3.61 (0.57)	3.83 (0.45)	<0.0001***	4.225		
たばこを吸うことはかっこいいと思う	1.64 (0.91)	1.52 (0.94)	0.1715	-1.371		

Wilcoxon rank sum test *p<.05 ***p<.001

また、健康の自己管理に対する意識、将来の喫煙に対する意識の変化について、対応のある t 検定を行った。それぞれの項目について、「そう思う」を4点とし、「思わない」を1点とした4件法で尋ねた。健康の自己管理について、「健康は自分自身で守るものである」、「病気になったらお医者さんが治してくれる」の2項目で有意に得点が有意に変化し、喫煙に関して「将来たばこをすすめられても断る」「おとなになってもたばこを吸わない」の項目で有意に得点が上昇した(表2)。

授業後の自由記述では、たばこや喫煙に関する新しい知識を習得したことや、将来の喫煙への姿勢を記述したものが多かった。主なものを表3に

表3. 自由記述の内容

カテゴリ	記述内容(抜粋)
学びについて	断り方をリアルに再現させてくれたので、深く考えることができました とてもよい学習になった。家族の喫煙者にも、今日おそわったことを教えてあげたい。 これからは、もっとたばこの事を知って、自分も吸わないようにしたい
学びの楽しさ	楽しかったこの危険性について学べた 知らない事をしれてよかった たばこについていろいろと知れたので、とても楽しい授業でした
新たに学んだ知識	小学校の時にした学習よりもはるかに詳しく濃い内容でした。たばこが自分だけでなく自分にとって大切なひとにも影響するのは、恐ろしいと思いました。今日感じた強い意志を将来、守っていききたいと思います 主流煙よりも副流煙のほうが害があることがわかった たばこを吸ってしまうと、運動機能が低下してしまったり、依存性が上がったり、歯がぼろぼろになってしまうので、気をつけたいです。
将来の喫煙への姿勢表明	親が吸っているからといってたばこは吸わないようにしようと思いました たばこは有害物質がふくまれているので、体にわるいし周りの人にもめいわくをかけるので、すいたくない タバコは絶対にすってはいけないということがわかりました。大人になってもすわないようにしたいです

まとめた。

5. 考察

喫煙防止教育は、近年、たばこに関する知識の教授のみではなく、たばこの害に曝露しないための態度や行動について、ロールプレイ等で模擬体験しながら学ぶ手法が多く取り入れられている。これらはライフスキルとして子どもがより健康に生きていくための手段となる。

今回、大学生が学習活動に参加したことで、グループごとの効果的なアクティブラーニングが可能となり、学習効果に反映されたものと推測できる。今後の喫煙防止教育の手法について、重要な示唆が得ることができた。

6. 文献

- 1) 原めぐみ、田中恵太郎：喫煙・受動喫煙状況、喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果、日本公衆衛生雑誌、60(8)、444-452、2013
- 2) 遠藤将光：小学校における禁煙教育の有用性について、禁煙科学、3(3)、30-34、2010
- 3) 久保沙織、大西香織、奥田紀久子他：母親の喫煙行動が小・中学生の喫煙に対する意識に及ぼす影響、小児保健とくしま、20、6-11、2012

本研究は公益財団法人かんば財団平成29年度の研究助成による成果である。